



ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



麻薬製剤の管理について

癌性疼痛に対する強オピオイドの使用は、この間、飛躍的に伸びています。特に、経口あるいは経皮からの投与される剤型も急速にその数を増加させています。

今回、内服麻薬について管理上の問題事例が医療安全委員会へ報告されているため、あらためて経口・経皮から投与される麻薬製剤について管理上での点検・整備をお願いします。

参考；強オピオイド製剤の動向

近年、麻薬は、癌性疼痛管理に広く使用されるようになっていきます。また、注射製剤の使用では患者の自己管理に不向きなため、様々な内服製剤や外用製剤が医療現場で使用されるようになっていきます。

こうした癌性疼痛の管理に使用される医療用麻薬製剤は、90年代はモルヒネ徐放化製剤として錠剤タイプ1種類だけで、使用する含量も10mg・30mg・60mgでした。

01年以降、03年末までに新しく追加された徐放タイプの内服製剤・外用製剤は下記のようになっています
成分では、1成分から3成分へ、投与経路では外用パッチ製剤が加わり、剤型ではカプセル・細粒・顆粒が追加となっています。さらに、それぞれの製剤の特徴にあわせて含量も異なっています。現在、強オピオイドについては米国では6成分・英国5成分が認可されており、日本でも成分がさらに増加していきます。また、剤型では水薬の追加も予定されています。

成分	投与経路	剤型	含量			
硫酸モルヒネ	内服	カプセル	10mg	30mg	60mg	
硫酸モルヒネ	内服	カプセル	20mg	30mg	60mg	
硫酸モルヒネ	内服	細粒	20mg	60mg		
硫酸モルヒネ	内服	顆粒		30mg	60mg	120mg
塩酸オキシコドン	内服	錠剤	5mg 10mg 20mg 40mg			
フェンタニル	外用	パッチ	2.5mg 5mg 7.5mg 10mg			

麻薬製剤の取り違い・含量のミスなどが今後増加することも予想されますので、今回、最低限の基準として以下の点を守っていただくをお願いします。

- 1) 施設で使用している麻薬製剤について、周知徹底を行なうとともに、癌性疼痛のコントロール方法について医療チームで学習を徹底してください。

なお、麻薬製剤の採用枠をもうけ、疼痛管理方法についてもルール化しておくことが望ましいとおもわれます。

- 2) カルテ記載や処方箋・薬袋・ワークシート・施行記録簿などへの麻薬製剤の記載は、下記の点を徹底するとともに、記載漏れや記載ミスがないように複数チェックを実施してください。

また、施行記録・残数についても複数チェックを実施してください。

製品名と含量を明記すること 例 MSコンチン10mg

1日投与量と1回投与量を明記すること

例 MSコンチン10mg 2錠 朝10mg 夕10mg

注意； 麻薬投与量が増加する際、下記のようにみかけの投与個数は減少すること
もあります。MSコンチン10mg 4錠 朝20mg 夕20mg

MSコンチン30mg 2錠 朝30mg 夕30mg

3) 麻薬処方の中止あるいは変更については、医師の指示に基づき薬剤師管理のもとで
実施して下さい。

中止された麻薬はすべて薬剤師が回収すること

変更された麻薬は、2) の遵守事項を徹底すること

なお、今回の麻薬管理については、法令に沿った厚生労働省の麻薬管理遵守事項です。
法的な遵守事項として徹底をお願いします。